

令和2年度  
3ポリシー（入学者受入れの方針、教育課程編成・実施の方針、  
卒業認定・学位授与に関する方針）に照らした取組に関する意見聴取  
報告書（概要版）

総合福祉学部                    社会福祉学科  
   福祉行政学科  
   福祉心理学科

総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科  
   情報福祉マネジメント学科

教育学部                            教育学科

健康科学部                        保健看護学科  
   リハビリテーション学科  
   医療経営管理学科

2020年10月27日

IRセンター

学外有識者所属： 企業

対象学科： 総合福祉学部 社会福祉学科、同 福祉行政学科、同 福祉心理学科  
総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科、同 情報福祉マネジメント学科  
教育学部 教育学科

事前資料： 履修系統図、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、「With You 2020」

書面報告： あり

ヒアリング： なし

ご意見・ご指摘事項等：

### (1) 総合福祉学部社会福祉学科

社会福祉コースと総合福祉コースのディプロマポリシーが全く同じというのはなぜなのか。

大学のガイドブックによると、社会福祉コースは「社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士などの国家資格の取得を目指し、社会福祉施設や行政機関などで活躍する人材や、医療機関で働く医療ソーシャルワーカー、保育士などを養成します」と書いてある。一方、総合福祉コースは公務員や教員、企業で働く人に適したコースと明記している。

社会福祉コースが目指すのは福祉の最前線で活躍する現場の人材の育成であり、片や総合福祉コースは少し引いた第二列から福祉の現場を支援する印象が強い。両者のディプロマポリシーも異なるのべきものとする。

どちらかという社会福祉コースのディプロマポリシーの方に、より実践的な内容が必要ではないか。特に福祉の現場で向き合う高齢者や障害者、乳幼児らのニーズを的確に把握して対処する「福祉の現場力」といった能力を汎用的技能に盛り込む必要があるのではないかと思う。

すべての学部を通しての印象だが、上記で指摘した高齢者や障害者、乳幼児ら社会福祉、地域福祉に救いを求める人たちといかに真摯に向き合うべきかという最も根源的な福祉の精神を、人材育成の基本に据えた記述がほしいと感じた。

この学科ではディプロマポリシーの④コミュニケーション力が該当するのかもしれないが、これは社会一般的な相互理解と解釈でき、福祉対象者を意識させる表現になっていない。

なぜ福祉が必要か。それは地域に福祉を求める人たちがいるからであり、そこに総合福祉学部の存在意義があるのだろう。東北福祉大学の本流である総合福祉学部社会福祉学科のディプロマポリシーには、福祉を求める人たちの尊厳を理解できる人材の育成が必要と感じた。

### (2) 総合福祉学部福祉心理学科

全体的にディプロマポリシーと具体的なカリキュラムの整合性が取れていると感じた。ディプロマポリシーは1から7まですべてが重要であり、学科の構成も全項目に満遍なく該当しており、特に気になる点は見つからなかった。

### (3) 総合福祉学科福祉行政学科

進路先に行政や多様な企業を想定しており、学問の分野が多岐にわたるのは自然なことと思う。専門性よりも社会の一員としての総合力、多様性を求める学科として十分なカリキュラム設定がなされているとの印象はある。ただ一方、大学のガイドブックで学科長は「学の根本にあるのは『一人ひとりの生活の質を高める』『一人ひとりの幸せを考える』という福祉のところであり、その実現のために自分が仕事を通してどうかかわるのが問われることとなります」と述べられている。総合力を身につけながら、社会福祉や地域福祉の専門性も同時に高めるカリキュラムが不可欠であり、ディプロマポリシーにもその点を明記する必要があるように感じた。

例えば行政に進んだ場合に求められる人物像として、行政が抱えるあらゆる課題、すなわち地域活性化、産業発展、企業誘致、雇用、教育、交通、防災、国際化、財政などの中で高齢者福祉、障害者福祉、貧困といった福祉全般を最優先にとらえる資質が想定される。一般企業の場合は、消費者や取引先、従業員とその家族などあらゆるステークホルダーの存在を福祉の視点でとらえ、ときには利益や収益と違う観点から企業の価値を高められるような人物が福祉行政学科から育ててほしいとも思う。

SDGsの価値観が浸透する中であって福祉行政学の考え方はますます重要になってくると感じている。公務員や民間総合職を育成する他の大学・学科とは違う東北福祉大学ならではの価値観を持った人材がより多く巣立つよう、「福祉行政」の「福祉」にもっと軸足を置いたカリキュラムがあっていいように思う。

上記にも関連するが、ディプロマポリシーのうち汎用性技能「e」の「自分と異なる意見をもつ人と互いに尊重し合いながらコミュニケーションをとれる」はダイバーシティの視点からも極めて重要と受け止める。だが、これに該当する授業科目に英語やドイツ語、中国語など語学が含まれるのは果たしてどうだろうか。

語学に「e」の履修目的があるのは否定しないが、「e」が最も強く求めるのは「外国語を身につけて外国人とコミュニケーションを図ること」というより「異なる意見をもつ人と互いに尊重し合う」ことの方であり、語学は「e」のごく一部しか満たさないと見るべきではないか。

「e」と社会福祉援助演習などを紐づけるのは妥当だろう。ほかに、仏教や宗教、倫理学、社会福祉原論なども「e」の一翼を担う学問と位置づけることが、福祉行政学科が求める人材育成にとって重要と考える。

### (4) 総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科

産業福祉マネジメント学科の根幹となるディプロマポリシーは大学のガイドブックにあるように「現代の産業社会を福祉の視点で捉え、『福祉』の概念を企業活動で実現できる人材の育成」あるいは「福祉の観点から社会の課題を見つけ解決するマネジメント力の養成」だと理解した。ただ、実際のカリキュラムを見ると「福祉と産業社会」あるいは「福祉と社会課題」を結び付けて思考する科目は数が少ない。極めて新しい学問領域ということもあり、大学の理念に学問の現場が追い付いていないという印象を受ける。

第一には「福祉と産業社会」「福祉と社会課題」を体系的に学ぶ科目の創設が必要だろう。ただ、現実問題として科目創設には一定の時間を要するだろうから、実際には、特に「社会企業領域」の中で、福祉の視点を意識した産業論やビジネス論を学べるよう導くことが重要になるだろう。

## (5) 総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科

ガイドブックで学科長が冒頭で語っておられる「福祉の視点から情報科学を学び、研究し、さらには実践することで人や地域社会に役立つ人材を育成します」という言葉がこの学科のすべてを言い表しているように感じる。現代社会を司る情報科学に欠けているのは、まさに福祉の視点であり、福祉と情報科学を結び付けた学問はこれからの社会的ニーズが極めて高い。しかし、情報科学に福祉を取り入れた学問は現実的にはまだ成熟しきっていないのか、同学科のカリキュラムからも苦勞が読み取れる。

授業科目で見れば「情報福祉マネジメント論」が上記の学問に該当するのだろうが、これを除くと、ほかは大部分が既存の学問で福祉と情報科学を別個に学ぶカリキュラムとを感じる。情報システムや情報ネットワーク、マーケティングなどを福祉的な視点で学ぶことはまだ困難だろうか。少なくとも、学科長の言葉を引用したようなディプロマポリシーを明文化し、そこに既存の学問・科目をいくつか紐づけるだけで印象は変わる気がする。

この学科に限らず、大学のガイドブックで各学科長が述べられている学科の理念はいずれも非常に意義深く、時代の先をきちんと見据えていて素晴らしいと感じるが、ディプロマポリシーと若干乖離があると思えるのは気のせいだろうか。理想と現実の距離を若干ながら感じてしまう。

## (6) 教育学部教育学科

ディプロマポリシーには必要な項目が過不足なく列挙してあるとの印象だ。実際のカリキュラムでは①～③の教育実践的な科目が多く、教育現場に送り出す人材教育の点でこれも当然と感じた。一方でディプロマポリシーの(2)「教育に対する強い使命感と責任感を持ち、豊かな人間性を備えた学生」を養成するとの目標に関しては、カリキュラム内容がやや薄いとの感想を持った。

どちらかという精神論の領域に入る(2)は教員として最低限身につけなければならない資質であり、大学生活4年間で徹底的に学ばなくてはならない。これに対して実際の学問分野では(2)を専門的に学ぶ科目がそれほど多くあるわけではなく、結果としてディプロマポリシーとのギャップを印象付けることになっている。

現実的にカリキュラムの内容を変えることは困難だと思えるが、それであればせめてディプロマポリシーとの紐づけについては、ディプロマポリシーの(2)をもっと強調したらどうだろうか。具体的には「△」と「○」を「○」や「◎」に格上げする。総論的な「概論」や「教育論」は当然ながら教員の資質を目指す内容になっているはずであり、これらについて「◎」や「○」を増やすだけで、より(2)の目的が鮮明になってくるのではないか。これに伴いディプロマポリシーとカリキュラムの乖離は大きく縮むものと想定される。

以上

学外有識者所属： 企業

対象学科： 総合福祉学部 社会福祉学科

総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科、同 情報福祉マネジメント学科

事前資料： 履修系統図、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、「With You 2020」

書面報告： あり

ヒアリング： あり

ご意見・ご指摘事項等：

### 1. 3つのポリシーの表現・アピールについて

#### (1) 社会福祉学科 … 学びの特色に関して

「専門知識と技術を身につけ、資格取得を目指す」の文言の付近に、主な取得可能資格の一覧があると見やすい。

#### (2) 産業福祉マネジメント学科 … 学びの目標に関して

「社会科学」の範囲は広く、高校生には具体的な内容が伝わりにくいかもしれない。経済学、経営論など、中心となる講義内容を示す言葉が入るとわかりやすいと思う。

#### (3) 情報福祉マネジメント学科 … 学びの特色に関して

「PBL」という言葉について、学科長のコメントには Project and Problem Based Learning と説明があるが、学生（高校生）にはわからないと思う。「課題解決」のような日本語的な表記もした方が良いのではないか。

### 2. 3ポリシーに照らした取組について

講義の内容・順番との整合など、適切性に関して特に気になる点はない。学生には選択の自由があり、整合性が取れないものは学生が選択しないと思う。志望進路の関係で選択したほうが良い講義等についての相談は、大学側で随時対応していると思うので、選択は学生の判断次第と考える。

学生さん一人一人の、一生のプロセスの中に大学生活があるのだと思う。それゆえ、特定の学科というわけではないが、資料を見て感じるものの一つとして「学びのプロセスやバリエーション」をもっと学生に見えるようにした方が良いと思う。また、学業だけでなく、部活動、ボランティア活動、アルバイトなど、福祉大ならではの多様な経験を通して身につく「人を喜ばせる心」は、福祉の原点でもあり、「チャレンジ精神」などと共に、将来にわたり重要な資質になる。いろいろな社会人とコミュニケーションをとることで、学生さん自身が気付かないでいる才能を相手が見出してくれて、結果として就職につながるような例もあり、時間が十分にある学生時代のうちにぜひ実践してほしい。

(近年の福祉大卒の採用者を見ていると) いわゆる大卒としてのレベルは上がっているように思うが、やや積極性に欠け、「型どおり」のタイプが多いと感じる。選考過程において、採用者には「素質」「知識」「教養」「やる気(意欲)」「経験」の5つを求めているが、このうち最も重視しているのは「経験」である。

### 3. その他

パンフレットやHPを通して、コロナ禍における対応・対策(入試、授業の方法、学費、経済的支援、感染防止対策、等)をもっと明確に伝える必要があると思う。

学外有識者所属： 医療機関

対象学科： 健康科学部 保健看護学科、同 リハビリテーション学科、同 医療経営管理学科

事前資料： 履修系統図、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、「With You 2020」

書面報告： あり

ヒアリング： なし

ご意見・ご指摘事項等：

### 1. 3ポリシーに関して

福祉大卒業生は、小児病院の専門職種として多数勤務しているが、各部署の長から「安定した仕事ぶり」が評価されている。医療の現場では「チームワークとコミュニケーション」が良好であることが重要であり、その涵養への要素として課外活動やスポーツなどの取組があるのではと感じている。従って、特に個別具体的な提案はない。

### 2. 各学科の教育課程等についてのコメント

#### (1) 保健看護学科

一定期間の実務経験の後、専門看護師を目指す職員も少なくない。そのような意欲ある専門職を受け入れる仕組み（大学院など）も必要な時代かと考える。

#### (2) リハビリテーション学科

現場では、言語聴覚士（ST）も協働している。独立専攻の必要はないかもしれないが、教育プログラムとしては重要と考える。

#### (3) 医療経営管理学科

病院の運営・経営において、医療情報を扱う職種の重要性は増している。学科の充実と優秀な人材輩出を期待する。